

飯伊地区 産業経済動向

No.464 2017/11
(29. 12. 25 発行)



http:// www. iidashinkin. co. jp
〒395-0044 飯田市本町1-2
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132

飯伊地区主要経済指標

主要指標		実数		前月比		前年同月比	
手形交換高 (飯田手形交換所扱)	枚数	3,500	枚	△	13.7 %	△	5.9 %
	金額	4,344,046	千円	△	3.1 %		16.5 %
うち不渡発生状況	枚数	0	枚	(前月 0 枚)		(前年同月 0 枚)	
	金額	0	千円	(前月 0 千円)		(前年同月 0 千円)	
倒産件数 (負債額1千万円以上)	県内	4	件	(前月 7 件)		(前年同月 9 件)	
	飯伊	0	件	(前月 1 件)		(前年同月 0 件)	
住宅着工戸数 (飯田市、下伊那郡 総数)(10月)		63	戸	△	25.0 %		23.5 %
有効求人倍率(パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内)(10月)		1.69	倍	(前月 1.62 倍)		(前年同月 1.52 倍)	
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新車	2,083	台		7.4 %		0.4 %
	中古車	527	台	△	11.3 %	△	2.0 %
軽自動車新規登録台数 (軽自動車協会連合会長野事務所) (10月)	新車	3,985	台	△	16.8 %		4.9 %
	中古車	927	台		0.5 %		7.4 %
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	122,384	台		3.0 %		1.1 %
	出	122,399	台		2.4 %		1.1 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	92,036	台		7.4 %		1.9 %
	出	91,645	台		9.6 %		1.1 %
中央道利用台数 (園原インター分)	入	16,479	台		13.5 %		1.8 %
	出	17,135	台		17.0 %		3.3 %
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	47,748	台		6.8 %		1.0 %
	出	47,817	台		7.0 %		2.1 %
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)		142	件		0.0 %	△	14.5 %
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)		7	件	(前月 4 件)		(前年同月 5 件)	
高速バス乗車人数	飯田～新宿	25,790	人	△	4.1 %		0.8 %
	飯田～名古屋	18,215	人	△	0.6 %		3.4 %
	飯田～長野	9,454	人	△	6.2 %		1.8 %
市内循環バス乗車人数	左回り	3,292	人	△	5.6 %	△	4.0 %
	右回り	3,308	人	△	1.6 %	△	4.8 %

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ (http://www. iidashinkin. co. jp) に全文掲載しています ◆

本誌は、当金庫が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみなさまとともに行っています。



100%植物性油製インキ
[リチウム] [100] を使用しました。

再生紙を
使用しています

概況

製造業

11月の製造業の業況判断指数（DI）は、製造業の業況判断指数（DI）は、プラス31.0で、前月から3.5ポイント下降。翌月予測もプラス41.4で、前月から5.0ポイント下降している。

電気、精密機械器具の販売は、前月比業者により増減分かれる。しかし、減少したとする業者にあっても前年比が増加していることあって、景況感の悪化には至っていない。半導体、液晶製造装置向け部品の販売は、前月比概ね横ばい～増加。「半導体製造設備の状況は良い」など景況感の良いとする業者も見られた。産業機器や医療機器向け部品の生産は、業者により増減まちまちも、「年末の駆け込みの依頼が例年より少ない気がする」など、やや減少～横ばいとの声が多い。しかし、受注残高が前月や前年に比べて増加している業者も多く、景況感が悪化した業者は見られない。建築用金属製品の売上の前月比は、やや減少。前年比も減少しているが、受注残高が増加していることあって、景況感はやや良いとの声が寄せられた。自動車向け部品の販売は、前月比減少～やや減少も、景況感が悪化した業者は見られず、好転した業者も見られた。小型電磁機器の販売は、前月比やや減少～横ばい。前年比はやや減少との声が聞かれたが、こうした業者であっても景況感は悪化しておらず、却って景況感が良いとする業者も見られた。FA関連モーターの受注、販売は、前月比概ね横ばい、前年比は増加、景況感も良いとの声。電気、電子製品では、受注、販売とも前月比増加、景況感も好転との声が寄せられた。

地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上の前月比は、横ばい～やや増加。「年末の繁忙期に入るのが早い」などの声が聞かれ、景況感が悪化した業者は見られない。「先月同様年末商品の出荷に追われ」「超繁忙期」を迎えている水引製品の販売は、前月比やや増加。一部に、前年比は減少との声も。漬物の販売は、「青果が高値のせい、浅漬類の動きは比較的良いのではないか」というが、「10月以降の長雨、台風で浅漬原料が高値の上に品薄状態。当面続く見通しで、製造、販売ともに影響が出ている」こともあり、前月比、前年比ともに減少との声が聞かれた。

建設業

11月の建設業の景況DIは、マイナス11.8で、前月から18.1ポイント下降。翌月予測DIも、マイナス5.9で、前月から5.9ポイント下降している。

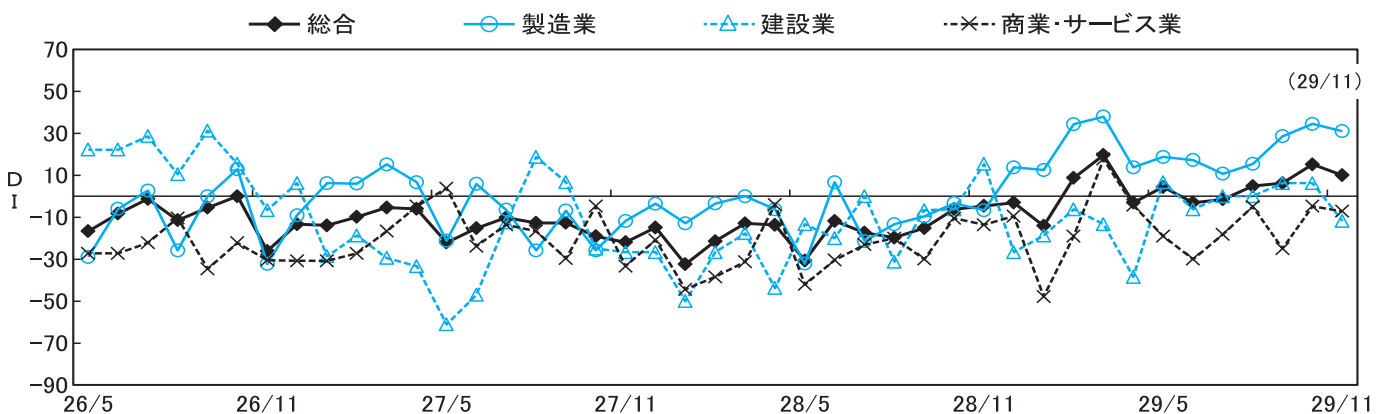
当地区における、当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約20.5億円で、前月比は34%増加、前年比も17%増加している（12月5日調査時点）。当月の調査先企業の受注残高の前月比は、一部に増加との声も聞かれたが、やや減少～横ばいとの声が多い。「県の発注工事が少ない」「公共工事の発注が少ない」などの声が聞かれ、景況感が悪化した業者も複数見られた。

民需の住宅着工戸数（10月）の住宅着工戸数は63戸。前月比25%減少も、前年比は24%増加している。当月の調査先企業の受注残高の前月比は、横ばい～やや増加。住宅、リフォームに関して受注残高が増加した業者が見られたほか、「大型工事がいくつか集中して下請業者は忙しい」などの声も。

商業・サービス業

11月の商業・サービス業の景況DIは、マイナス7.1と、前月より2.3ポイント下降。翌月予測DIは、プラス5.9で、前月より1.1ポイント上昇している。食料品の売上の前月比はやや減少との声が多いが、景況感が悪化した業者は見られない。製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや増加、景況感に変化は見られない。家事用品卸の売上は、前月比、前年比共にやや増加。景況感も好転との声が寄せられた。電化製品の売上は、前月比はやや増加、前年比業者により増減まちまち。OA機器の売上は、前月比、前年比共に減少との声。衣料品の売上は、前月比、前年比共に減少も、景況感に分かれる。娯楽用品の売上は前月比、前年比ともにやや増加。土産物関連の売上は、前月比業者により増減分かれ、一部に景況感が悪化した業者も見られた。松本自動車検査登録事務所管内の自動車新規登録台数は、新車は前月比7.4%増加、前年比も0.4%増加。10月の県全体の軽自動車新規登録台数は、新車は、前月比16.8%減少、前年比は4.9%増加。自動車販売、整備の売上は、前月比やや減少、前年比増加との声。市内料理店の売上は前月比増加も、「宴会が少ない。出前でやっと前年並みになった。良い材料がない」など景況感悪化との声。昼神温泉からは、「紅葉シーズンを迎えたのに前月比、前々月比共に売上はダウン」「部屋の稼働率が低い」などの声が寄せられた。

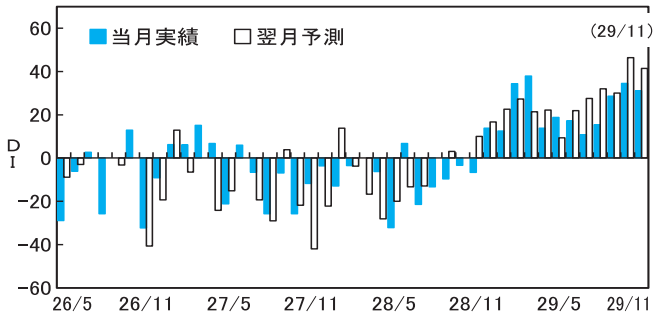
飯伊地区景況DI（本誌調査）



製造業

地区内製造業の景況判断指数

飯伊地区景況DI（製造業）



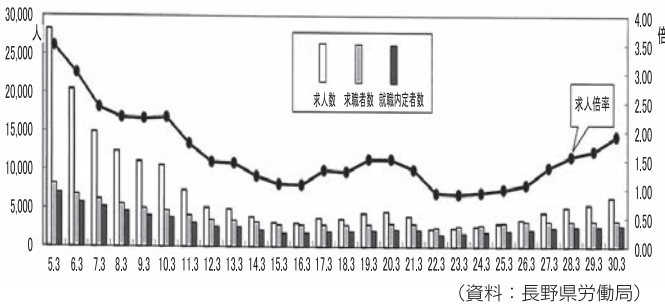
当月実績	31.0	（前月 34.5）
翌月予測	41.4	（前月 46.4）

当月の製造業の業況判断指数（DI）は、プラス31.0で、前月から3.5ポイント下降。翌月予測もプラス41.4で、前月から5.0ポイント下降している。

飯伊地区高等学校卒業生の就職状況

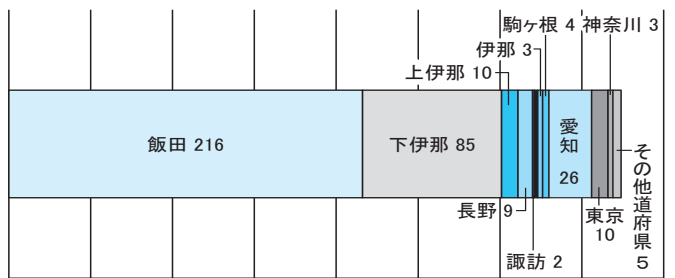
後述【企業からのコメント】でも声が寄せられているが、去る12月1日、長野県教育委員会、飯田OIDE長姫高校人材育成委員会、飯田公共職業安定所の主催による「第2回企業展示説明会、地元企業の高校内企業説明会」が開催され、生徒及び保護者に地元企業を知ってもらうことを目的に、当地区の46企業が、就職を希望する高校生に自社の紹介を行った。長野県労働局によると、29年10月現在、平成30年3月の高等学校卒業予定者に対する県全体の求人数（県内企業による求人のみ。以下同じ）は6,446人、求職者数は3,368人で、求人倍率は1.91倍で、昨年より0.25ポイント上昇している。

新規高等学校卒業生の求人、求職、就職内定の年次別推移（全県）



その内、南信ブロックの求人数は2,041人で、これに対する求職者数は1,128人、求人倍率は1.81倍となっている。

飯伊地区の平成29年3月新規高等学校卒業生の市郡、県別就職先



（資料：長野県平成28年度学校基本調査）

長野県の平成28年度学校基本調査によると、飯伊地区の平成29年3月の新規高校卒業生が就職した地域としては、飯田市下伊那が最も多く、両地域で80%を占める。次いで、愛知県が多く、7%を占めている。

また、就職先の業種としては、製造業が最も多く194名で全体の52%を占める。次いで卸、小売業の28名（7%）、公務20名（5%）などとなっていた。

市町村別産業大分類別就職者数

農業、林業	建設業	製造業	熱供給・水道業	電気・ガス・情報通信業	運輸業、郵便業	卸売業、小売業	専門・技術サービス業	学術研究・宿泊業	飲食サービス業	娯楽業	生活関連サービス業	医療、福祉	複合サービス業	（他に分類されないもの）	サービス業	公務（他を除外）	左記以外のもの
4	41	194	10	3	14	28	2	19	15	15	14	5	4	20	1		1

（資料：平成28年度学校基本調査）

機械加工製造業

電気、精密機械器具の販売は、前月比業者により増減分かれる。しかし、減少したとする業者にあっても前年比が増加していることあって、景況感の悪化には至っていない。先行き生産の増加を見込む声もあり、先行きに関する景況感は概ね好転している。原材料、資材価格や製品価格に大きな動きはなかった様子。一部に、雇用面の不足感を指摘する声が聞かれたほか、設備面では積極的な声が多い。

半導体、液晶製造装置向け部品の販売は、前月比概ね横ばい～増加。「半導体製造設備の状況は良い」など景況感が良いとする業者も見られた。受注面の前月比は業者により増減分かれ、やや減少との声も聞かれたが、こうした業者でも「AI、IoT関連の需要拡大」「スマホ、車載向け増産継続」「FPD関連装置引き続き良好」などの声が聞かれ、景況感が悪化した業者は見られない。先行きに関して「来年度に向けて増産計画あり」など増産を見込む声も複数聞かれた。こうした中、「中途社員複数名増員。新卒若干名、中途採用も募集」「不足」「やや不足」など、人員の不足感を指摘する声が軒並み寄せられたほか、設備面でも「前期の予定は終了。後期、来期に向けた計画策定中」「今後予定」「検討中。今季中に予定」など積極的な声が多い。原材料、資材価格に当月大きな動きはなかった様子も、「ステンレス鋼版上昇」など前年に比べ上昇しているとの声が複数聞かれた。

産業機器や医療機器向け部品の生産は、業者により増減まちまちも、「大口が終わった」「設備のメンテナンスで稼働が減少した」「年末の駆け込みの依頼が例年より少ない気がする」など、やや減少～横ばいとの声が多い。しかし、受注残高が前月や前年に比べて増加している業者も多く、「相も変わらず高め安定で推移」「全体的に動きは良い」「ロボット関連が忙しい」「同業も皆忙しそうだ」「荷動きが若干活発になってきた」「加工ロット数が増加して忙しくなってきた」「新規顧客を得ることができた」など景況感が悪化した業者は見られない。こうした中、「好調。先行発注が多くなっている」「短納期の案件も引き続き多い」など客先も納期を前倒したり、急な発注を行っている様子が窺える。また、「単品物の旋盤加工屋さんが減少していることもあって、丸物の手配が厳しい」など、「購入品の入りが悪い。こうした声は多く、取り合いになることすらある」との声も。「次月以降に納期が集中。前倒して生産で在庫増加」など先行きも上向きとの見方が多いが、「当期末に向けての動きは不鮮明

な部分もある」との声も。

「受注増に対応するため2部制で稼働時間延長」などの声が聞かれるが、増員を予定する声は多くはない。設備面では、「増設検討中」「検討中」「当面は実施しないが、年明け以降に予定」「予定あり」などの声が聞かれた。「ガソリン代、ガス代大幅アップ」「年明けからアルミ材上昇」など、原材料、資材価格の上昇を指摘する声が複数聞かれた。一方、製品価格は「値上げは厳しい」という。

建築用金属製品の売上の前月比は、やや減少。前年比も減少しているが、「仕事量は増加している。例年より緩やかだが上昇傾向」など受注残高が増加していることもあって、景況感はやや良いとの声が寄せられた。「首都圏は活発。発注が遅れており、夏以降に集中しそうな気配で、受注に当たっては注意が必要」という。雇用面、設備面で積極的な声が聞かれた。

自動車向け部品の販売は、前月比減少～やや減少も、景況感が悪化した業者は見られない。却って、一部に前年比が増加していることもあり、景況感が好転した業者も見られた。こうした業者では「一部車種の増加で、これに関わる部品が好調」という。「年末手当をもらってから転職する希望者もいるため、人の動きが少なく、求職者が少ない様子。こうしたこともあって人手不足が依然続く見込み。インフルエンザの流行による工数の不足も心配」など人員の不足感を指摘する声が聞かれた。こうした点は投資面でも影響が出ているとの声もあり、「人手不足で増産のための投資は控えめ。人手に代わる、自動化、省力化の設備導入が主となる」という。「アルミ材を中心とする有償支給材が高騰している」との報が寄せられた。

小型電磁機器の販売は、前月比やや減少～横ばい。前年比はやや減少との声が聞かれたが、こうした業者にあっても景況感は悪化しておらず、却って景況感が良いとする業者も見られた。先行きの見方も分かれ、一部に弱含みとの声も。先行き、原材料、資材価格の上昇を見込む声が聞かれた。設備面で積極的な声も。

FA関連モーターの受注、販売は、前月比概ね横ばい、前年比は増加、景況感も良いとの声が寄せられた。「産業機械向け、車載向けともに増加で推移」との声が聞かれ、先行きもこうした状態が続く見込みという。

電気、電子製品では、受注、販売とも前月比増加、景況感も好転との声が寄せられた。「開発要員が不足。外部委託を強化する」との声が聞かれた。

地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上の前月比は、横ばい～やや増加。「年末の繁忙期に入るのが早い」などの声が聞かれ、景況感が悪化した業者は見られない。「特定の販路が増加」「新製品で売上増」など、前年比は増加した、ないしは先行きの増加を見込む声がある。当月、原材料、資材価格や製品価格に大きな動きはなかった様子だが、「運賃、段ボール等の値上げの話が来ている」「年明けくらいから段ボール値上げ」など上昇を見込む声は少なくない。雇用面、設備面では概ね現状維持の様子。

「先月同様年末商品の出荷に追われ」「超繁忙期」を迎えている**水引製品**の販売は、前月比やや増加。一部に、前年比は減少との声も。「リース正月飾りの企画ものが多くなり、売り場も華やいでいる」「同業各社正月飾りの出荷の最盛期だが、以前に比べて量が減り、納期も分散していて、忙しさという点ではさほどでもないといった声は多い」などの声が寄せられた。この時期、各社とも「季節パートを増員」しているが、「順調に確保できた」との声が寄せられた。一部に、原材料、資材価格がやや上昇しているとの声。

漬物の販売は、「青果が高値のせいか、浅漬類の動きは比較的良いのではないか」というものの、「10月以降の長雨、台風で浅漬原料が高値の上に品薄状態。当面続く見通しで、製造、販売ともに影響が出ている」こともあり、前月比、前年比ともに減少との声。雇用面で積極的な声が聞かれた。

その他製造業

食品関連包材の生産は、前月比横ばい、先行きはやや減少を見込んでいるとの声が聞かれた。原材料価格、製品価格に大きな動きは見込まれていないという。

印刷、出版関連の売上は、前月比やや減少、前年比はやや増加との声が聞かれた。「次年度に向けた各官庁予算用の見積もり依頼が多い月だったが、多数の業者が競争し、適正な価格を大きく下回ることが常態化している」という。「年賀はがきは年々減少しているが、特に今年は動きが悪い。次月の巻き返しに期待。年末年始のチラシは昨年並みの見込み」との声が寄せられた。雇用面、設備面で積極的な声がある。

衣料品の受注は、前月比、前年比ともに減少との声が聞かれた。「11月まであまり作っていなかった冬物ウールコートの特急で作った。確かに冬の訪れが急で、寒さも厳しい」といった動きはあるものの、「冬物の新規発注があるにはあるが、小ロット単価安。全体としては受注が大幅に減少。相変わらず市況が悪い」などの声が聞かれ、景況感も悪化している。「シャツ関係の受注が増えてきたが、国内で対応できていない。納期、単価も合わず、作る場所がない。かといって海外生産は好みではない様子で、Made In Japanへのこだわりは強い」との声が寄せられた。

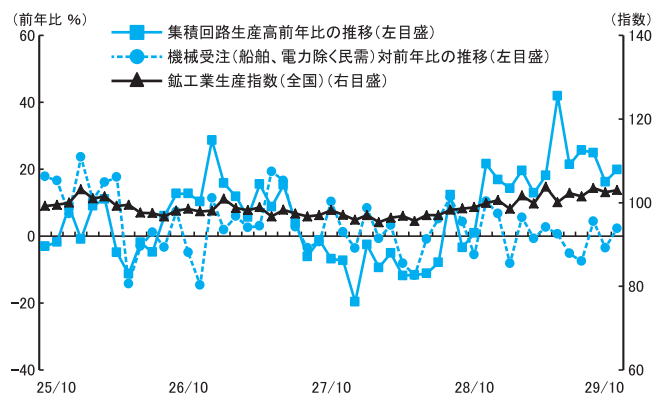
住宅機器、オフィス家具や店舗用什器など家具の生産は、前月比、前年比ともやや増加との声が寄せられた。「年度末までの受注があったとの声もある。生産キャパシティの確保に動き始めた客先が増えているのだろうか」という。「原材料価格が軒並み上がる」との情報がある。一方、客先は強気で、コストダウン要請が止まらないとの声。雇用面で「やや不足気味。来春の新規学卒者の入社まで現状で持ちこたえられるか検討している」との声が聞かれた。

【企業からのコメント】

★12月1日に長野県飯田OIDE長姫高等学校で、飯伊地区の高校2年生450名を対象に、地域の企業46社が集まり、企業説明会が開かれた。製造業のみならず、宿泊業、建設業などでも人気のある会社もあり、多くの学生さんが集まった。

★隙間産業の価値が見直されてきたように思う。

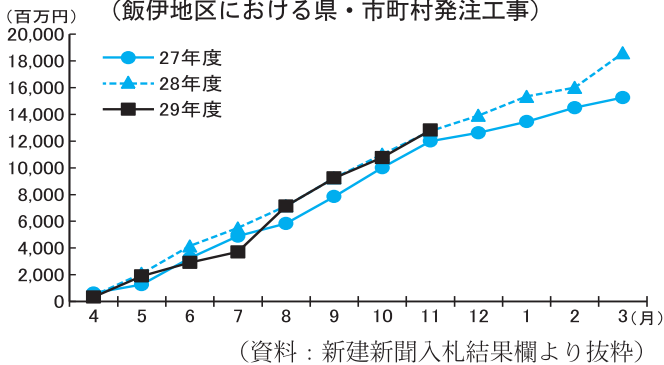
集積回路、機械受注・鋳工業生産指数の推移



建設業

入札額累計の推移

(飯伊地区における県・市町村発注工事)



(資料：新新聞入札結果欄より抜粋)

当月景況DI	-11.8	(前月 6.3)
翌月予測DI	-5.9	(前月 0.0)

官公需

当地区における、当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約20.5億円で、前月比は34%増加、前年比も17%増加している(12月5日調査時点)。

当月の調査先企業の受注残高の前月比は、一部に増加との声も聞かれたが、やや減少～横ばいとの声が多い。「県の発注工事が少ない」「公共工事の発注が少ない」「飯田下伊那は仕事が少ない、県内他地域、県外に仕事に行っている業者もいる」「生コン、骨材、合板の動きも悪いのではないかと。大型ダンプトラックも空いている」「公共事業の発注は例年通り低調。補正予算で増えていくことを望んでいる」「リニア関連工事もまだ動きが悪い。現在測量中なので、設計、用地買収などを考えると、工事の発注は3年後くらいでは」との声が聞かれ、景況感が悪化した業者も複数見られた。

こうした中、「官庁工事の平準化で月ごとの発注件数は平均化してきたが、個々の工事を見ると発注金額が目減りしていて完工が早まっている。そのためすぐに入札に参加してくるので、常に熾烈な競争が続いている」という。

「リニア関連工事が本格的になっていない今でさえ、地元の型枠、鉄筋、鉄骨、住宅基礎工事、土木施工工事などの業者、技能者が少なく、受注工事も手持ちの状態になることもある。今後の工事量によっては、これらの業者、技能者が他地域から流入し、工事単価、資材単価から業界模様まで変化する可能性もあるのではないかと」との声が聞かれた。

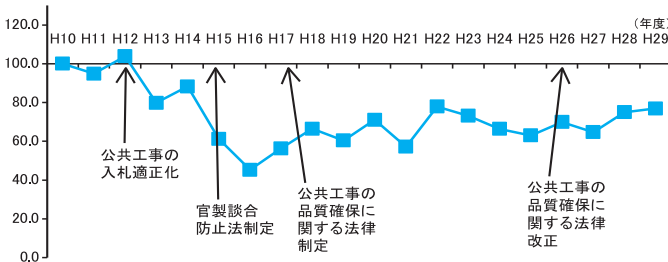
「型枠」「鉄骨」「燃料等」「石油製品」などが値上がりしており、「厳しい」との声も。

設備面では、「I-CON 工事受注のため、高度な測量機器等」「測量機器」などの拡充を図っているとの声が聞かれた。

飯伊地区の県、市町村発注工事 1件当たり金額

グラフは、飯伊地区の県、市町村発注工事 1件当たり金額の推移を、平成10年度を100とした指数で表し

飯伊地区公共工事 1件当たり金額
(県、市町村発注工事 H10年度=100とする指数)



(資料：新新聞 入札結果欄より抜粋)

たもので、「公共工事の入札適正化促進法」が制定された翌年度の平成13年度以来この金額は急激に低下した。もっとも、「公共工事の品質確保に関する法律」が制定された平成18年度あたりからやや上向いている。

民需

当地区の10月の住宅着工戸数は63戸。前月比25%減少も、前年比は24%増加している。

当月の調査先企業の受注残高の前月比は、横ばい～やや増加。住宅、リフォームに関しては、受注残高が増加した業者が見られたほか、「住宅だけなら、完成物件もあれば受注もあるという具合で、受注残高はそうは変わらない」「リフォームのみ」などの声。その他民間工事に関し、「少ない」などの声のほか、「競争力のある業者は好況の様子」「大型工事がいくつか集中して下請業者は忙しい」などの声も。「各社、そこそこの仕事は確保しているのではないかと」という。

こうした中、「職人さんは、年末ということもあって忙しい人が多い」「技術者の不足」などの声が聞かれ、こうしたこともあってか、工事単価がやや上昇しているとの声が複数聞かれた。

建設資材

鋼材の売上は、前月比やや減少。前年比はやや増加しているものの、「月初は比較的好調だったが、後半急激に失速。しかし、これといって変動の要因が見当たらない。一部製造業は好調のようだが、建築、土木は見通しが良くない。総じて鋼材需要は芳しくなく、景気回復とは程遠い感」など、景況感は悪化との声が寄せられた。鋼材価格に関し、「メーカーの値上げを転嫁できずにいた流通も、利益率の低下に我慢できず、値上げを始めた」との声が聞かれた。

生コンの売上は、前月比やや増加～増加、前年比は増減分かれる。「主な受荷はリニア関連工事、三遠南信自動車道関連工事、砂防工事に関わるもの。JR発注のリニア関連工事は前月より若干の減少」という。「堰堤工事が順調に打設でき、まずまずの出荷」など景況感が好転した業者も見られた。こうした業者では先行きも増加を見込んでいる。

骨材等の売上は、前月比増加、前年比は業者により増減分かれる。景況感が好転した業者は見られないものの、「生コン、アスコン向け出荷が多かった」「地域差があるが、公共工事向けの生コンが今一つの感。しかし、小さな民間需要の生コンはそこそこある」などの声。「リニア、三遠南信自動車道、座光寺スマートインター、国道256線改良等々話はたくさんあるが、嵐の前の静けさといった感」との声が聞かれた。

【企業からのコメント】

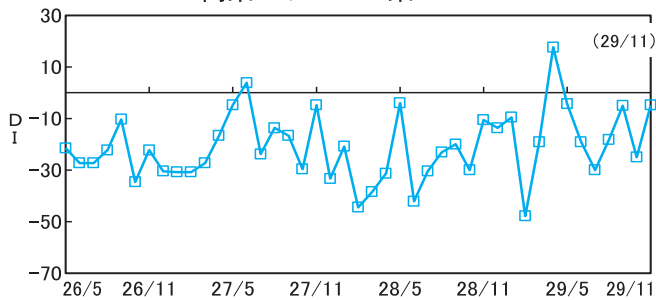
- ★当組合の業者には受注がないものも見られ、格差が生じている。
- ★「中途採用予定」「高齢化対策が必要」「施工職員募集中」「人手は、目下は過剰も、長期定期には不足」「人員募集」「増員検討中」

住宅建築確認申請受付状況 (※本誌調査による概数)

- 11月 ○飯田建設事務所分
- 新築 11件 (前年 12件)
 - 増築 0件 (前年 1件)
- 飯田市役所分
- 新築 23件 (前年 20件)
 - 増築 0件 (前年 1件)
- ※指定確認検査機関分を含む

商業・サービス業

商業・サービス業DI



当月景況DI -7.1 (先月 -4.8)

翌月予測DI 5.9 (先月 4.8)

商業

食料品の売上の前月比はやや減少との声が多いが、景況感が悪化した業者は見られない。先行きは、歳末を控えていることもあり増加を見込む声が多い。前年比は業者により増減分かれるが、やや減少との声が多い。「野菜類の仕入価格が高値安定状態の為、店頭品でも、給食納入品でも粗利を圧迫している状況」などの声のほか「10月、11月の松茸の不作の為、売上が厳しい。年明けに影響しそう」との声が寄せられた。雇用面で積極的な声は多くはないが、一部に「部門によっては不足」「増員」などの声もある。

【青果卸売市場】

売上は、前月比、前年比共にやや減少という。野菜は、「10月の天候不良により、野菜の生育が非常に悪く、菜類についてはほとんど出荷できない品目がある。昨年に比べれば安いものの、平年より高値の取引となった。全体では入荷量14%増で価格は17%安。菜類の高値はしばらく続く予想」との声。果実は、「主力のりんごは、昨年遅霜の被害があり近年にない不作の年であったが、今年も台風の被害もあり、品質的に良いものが少ない。入荷量は昨年より2割ほど増えたが、一昨年より8%ほど少ない入荷量だった。果実全体では前年比入荷量15%増で価格は16%安」という。

製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや増加、景況感に変化は見られない。

家事用品卸の売上は、前月比、前年比共にやや増加。景況感も好転との声が寄せられた。「紙類の出荷は多いのだが、利益が少ない」という。先行きは時期的なこともあり売上の増加が見込まれている。仕入単価が上昇しており、この傾向が続く見込みとの声が聞かれた。

電化製品の売上は、前月比はやや増加、前年比業者により増減まちまち。事業用は「上伊那地域を中心に工場関係の設備投資が継続しており、LED照明、制御機器等の伸びは良い」との声。また家庭用は「季節商品の動きが順調。小型温風機、エアコン等の出荷が目立つ」などの声が聞かれた。年末の販促活動を企画しているとの声も。

OA機器の売上は、前月比、前年比共に減少。ただ、「複合機等の事務機は売上が伸びていないが、オフィス家具の案件は、『働き方改革』に向けた提案等で、動きが少しずつ始めているように感じる」などの声。また「アマゾンビジネスのB to B市場への参入による影響が今後懸念されるところではあるが、現在のところ、それ程の動きは見られない気がする」との声が寄せられた。

衣料品の売上は、前月比、前年比共に減少。景況感分かれ、「昨年は11月に特需があったため、数字面では落ちてしまったが、特別変化なし。12月の年末商

戦の方が気になる」などの声の一方、「依然、衣料品は消費志向が低いと感じる。買い控え、購入単価の減少が見られる」との声も聞かれた。

娯楽用品の売上は前月比、前年比ともにやや増加。時期的なこともあり、次月以降売上の増加が見込まれている。

土産物関連の売上は、前月比業者により増減分かれる。一部に、前年比はやや減少との声も聞かれ、こうした業者では「季節的要因だけが理由というのではなく、徐々に下降気味。対処方法難航」など景況感も悪化している。仕入価格の上昇に伴い、販売価格も上昇との声。一部に設備面で積極的な声が聞かれた。

松本自動車検査登録事務所管内の自動車新規登録台数は、新車は前月比7.4%増加、前年比も0.4%増加。中古車は、前月比11.3%減少、前年比も2%減少した。10月の県全体の軽自動車新規登録台数は、新車は、前月比16.8%減少、前年比は4.9%増加。中古車は、前月比0.5%増加、前年比も7.4%増加した。

自動車販売、整備の売上は、前月比やや減少、前年比増加との声。「12月、1月は休業日が多く売上維持が困難」という。「中古車の仕入はこのところ平均単価が上昇傾向。中古車相場が高く、販売価格も昨年に比べれば上昇している」との声が聞かれた。「ここ数年を振り返ると、小規模販売店、店主の廃業が見られる反面、新規参入する販売店、整備工場が目立つようになった」との声が聞かれた。雇用面、設備面で積極的な声が聞かれた。

サービス業

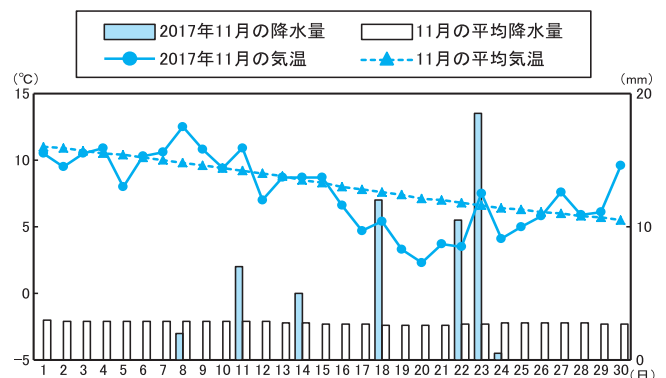
市内料理店の売上は前月比増加。しかし「宴会が少ない。出前でやっと前年並みになった。良い材料がない」など景況感悪化している。「うに、イクラの仕入単価が倍になった。こんなことは初めて。その他にも、売れ筋の海産物が高くなり儲からない」との声が聞かれた。

昼神温泉からは、「紅葉シーズンを迎えたのに前月比、前々月比共に売上はダウン」「部屋の稼働率が低い」「紅葉、雲海ツアーともに集客が今一つ。集客方法の見直しの必要も感じる」などの声が聞かれた。「人手不足は相変わらず」など人員の不足感があるという。

【企業からのコメント】

- ★観光業全般 冬の時代到来？
- ★「機材の維持管理に留意して、一年でも長く使用できるようにしている」「既存設備の管理を徹底し、維持、美化に努める」
- ★取引のある中堅メーカーが大手メーカーに吸収合併されるため細かい注文ができなくなりそう。
- ★事業承継を計画していきたい。

飯田の気温と降水量



2017年の飯伊地区各種統計から

長野県鉱工業生産指数

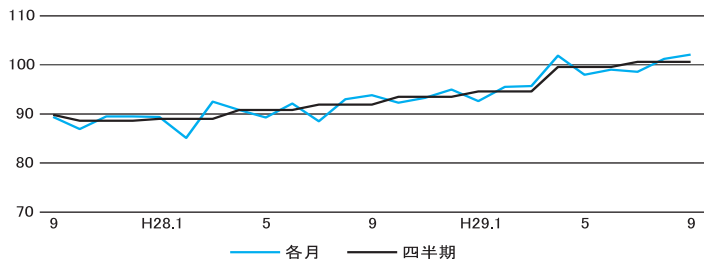
9月までの平成29年の長野県鉱工業生産指数(季節調整済指数 H22=100 以下同じ)の推移をみると、年初以来90を下回った月はなく、特に4、8、9月は平成22年の水準を上回っている。前年比を見ても、各月とも前年を上回っている。そうした中、図表にはないが、情報通信機械工業(ウェイト1171.7/10,000)、化学工業(ウェイト427.2/10,000)などでは、年初以来前年比マイナスとなっている月が多い。

増加率に対する寄与度をみると、はん用・生産用・業務用機械工業(ウェイト1731.8/10,000)、電気機械工業(ウェイト690.6/10,000)などで増加への寄与度が大きい。また、輸送機械工業(ウェイト867.1/10,000)、その他工業(ウェイト555.8/10,000)などで、本年第2四半期くらいから増加への寄与が拡大している。

資料：長野県企画局情報政策課

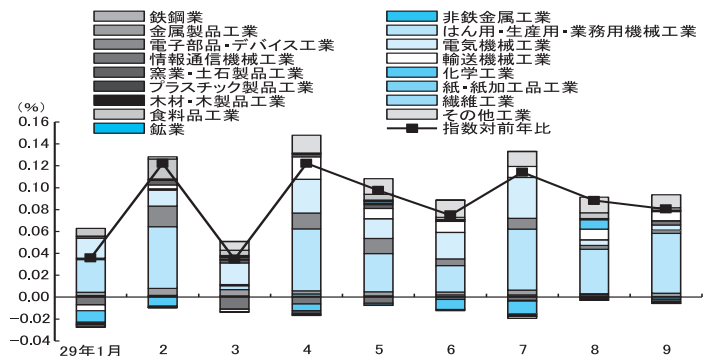
※平成29年の9月は速報値、8月以前は確報値を使用。
ただし、今後年間補正等により改定されることがある。

長野県鉱工業生産指数(季節調整済指数 H22=100)の推移



(資料：長野県鉱工業指数)

長野県鉱工業生産指数(季節調整済指数 H22=100)上昇率 品目別寄与度



(資料：長野県鉱工業指数)

飯伊地区の県、市町村工事入札額

平成29年10月現在の、当地区における県、市町村を合わせた入札額の累計をみると、概ね一昨年度、前年度並みとなっている。

10月現在、県の発注工事入札額累計が一昨年度、前年度をやや下回っており、発注の動きが若干鈍いようにも思われる。町村計はほぼ前年度並み、飯田市ではやや増加している。

飯伊地区の住宅着工戸数

住宅着工戸数(用途別)の推移を見ると、平成29年10月現在の暦年累計は、持家375戸、貸家134戸、給与2戸、分譲66戸で、合計577戸。昨年10月時点では、持家346戸、貸家122戸、給与14戸、分譲52戸で、合計534戸だった。

昨年5月以降着工戸数の多かった貸家が、本年5月以降前年を下回る月が多くなったこともあって、夏場の着工戸数は昨年に比べ低調だったが、9月以降再び前年同月を上回るようになってきている。

住宅、集合住宅以外の、用途別建築確認申請件数

(指定確認検査機関分を含む飯田建設事務所建築課の、本年4月1日以降受付分。本誌調査による概数)

平成29年4月1日以降に飯田建設事務所建築課(指定確認検査機関分を含む)が受け付けた、用途を把握できる住宅、集合住宅以外の建築確認申請件数62件(10月末日現在)の内訳を見ると、工場が9件、倉庫6件、飲食店4件などとなっている。なお、「その他」には、ショールーム、寄宿舍、栽培室などが含まれる。

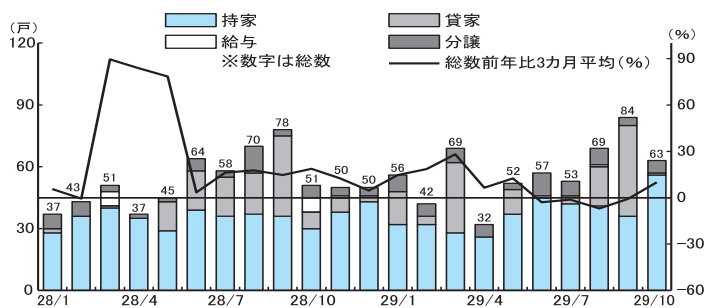
発注者別入札額の累計

(単位：百万円)

年度	県			飯田市			町村計			県、飯田市、町村計		
	H27	H28	H29	H27	H28	H29	H27	H28	H29	H27	H28	H29
4月	348	241	82	82	42	58	204	170	195	634	453	335
5月	471	314	191	261	450	213	531	1,335	1,503	1,263	2,099	1,907
6月	873	857	398	489	1,018	582	1,882	2,274	1,941	3,244	4,149	2,922
7月	1,369	1,516	732	1,123	1,357	780	2,401	2,624	2,198	4,893	5,497	3,711
8月	1,764	2,269	2,372	1,388	1,488	2,232	2,688	3,391	2,542	5,840	7,149	7,146
9月	2,876	3,727	3,263	1,621	1,831	2,442	3,351	3,679	3,539	7,847	9,237	9,244
10月	4,159	4,095	3,564	1,855	2,788	3,024	3,996	4,125	4,182	10,010	11,008	10,770
11月	5,661	4,320	-	2,058	4,146	-	4,280	4,288	-	12,000	12,753	-
12月	5,912	4,694	-	2,268	4,552	-	4,444	4,672	-	12,624	13,919	-
1月	6,376	5,680	-	2,370	4,788	-	4,712	4,878	-	13,458	15,346	-
2月	7,237	6,035	-	2,465	4,862	-	4,794	5,114	-	14,497	16,010	-
3月	7,538	6,674	-	2,778	5,967	-	4,946	5,952	-	15,262	18,594	-

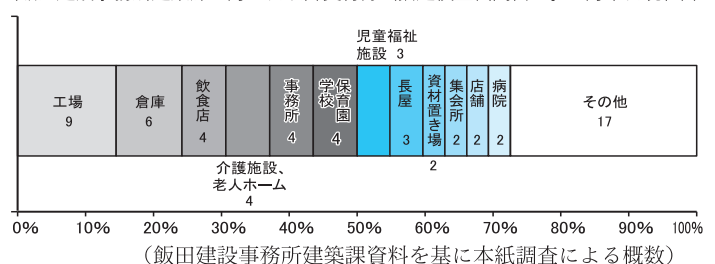
(資料：新建新聞「入札情報」抜粋)

飯田市・下伊那郡 住宅着工戸数の推移(用途別)



(資料：長野県住宅部)

平成29年度 飯伊地区の住宅以外の、用途別建築確認申請件数(飯田建設事務所建築課4月1日以降受付分(指定検査機関含む。10月末日現在))



(飯田建設事務所建築課資料を基に本誌調査による概数)

自動車、軽自動車新規登録台数

平成29年の新車と中古車を合わせた自動車新規登録台数（松本自動車検査登録事務所管内）の累計は、11月現在、新車が25,350台、中古車が6,681台で、合計32,031台。昨年11月時点では、新車が25,669台、中古車が6,875台で、合計32,544台だった。本年の新車、中古車合計の対前年比3か月平均の推移を見ると、夏場に前年を上回る月が見られたが、概ね前年並みの推移となっている。

平成29年の新車と中古車を合わせた長野県全体の軽自動車新規登録台数累計は、10月現在、新車が41,340台、中古車が9,981台で、合計51,321台。昨年10月時点では、新車が38,799台、中古車が9,201台で、合計48,000台。新車で本年4月頃から前年同月比が回復しているほか、中古車の登録台数が年を追うごとに増加していることもあり、平成29年10月現在の新車と中古車を合わせた長野県全体の軽自動車新規登録台数累計は、平成27年の同時期を若干下回る程度に回復している。

倒産件数（負債総額1千万円以上）

平成29年の当地区の倒産件数は、11月までの累計で10件となっている。平成28年の1～11月の累計は7件だった。

なお、平成29年の当地区における倒産件数の業種別の内訳は、11月現在、製造業1件、販売業1件、建設業3件、運輸・サービス・その他の業種が5件となっている。

高速バス利用人数

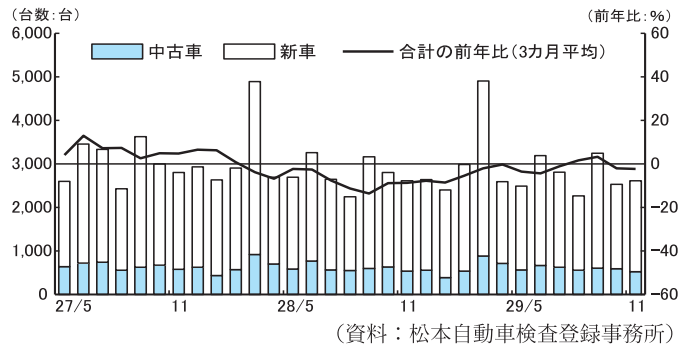
平成29年の高速バス利用人数を、平成24年の各月を100とした指数で推移をみると、飯田～名古屋線では各月とも100を超えている。なお、飯田～名古屋線の指数は、平成26年2月以降連続して100を超えており、月を追うごとに増加している様子が見受けられる。飯田～新宿線、飯田～長野線の本年の同指数は100前後で推移したが、飯田～新宿線で100を超えた月は5、7月だった。飯田～長野線では5、6、7、10、11月に100を超えていた。

中央道利用台数

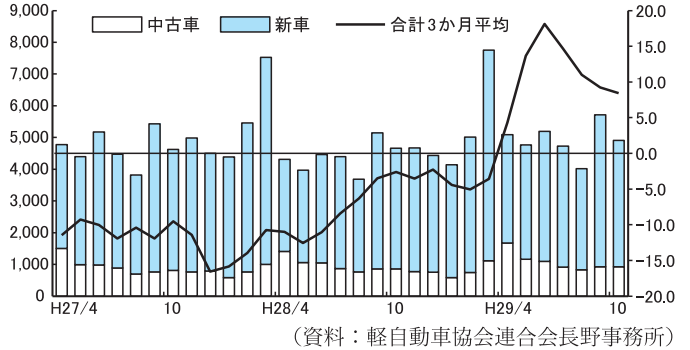
（飯伊地区4インターチェンジ出入合計）

平成29年10月現在の、当地区4インターチェンジ利用台数累計は、飯田IC2,287,306台、松川IC1,525,775台、園原IC310,083台、山本IC846,935台で、合計4,970,099台となっている。これをもとに平成29年の各ICのシェアを算出し、山本ICが供用開始となる前の平成20年の3インターチェンジのシェアと比べると、飯田ICが12.4ポイント、松川ICが3.1ポイント、園原ICが1.6ポイントシェアを減らしている。これらの減少分が全て山本インターチェンジに代置されているとすると、概ね7割が飯田ICから、2割が松川ICから、1割が園原ICから代置されたこととなる。

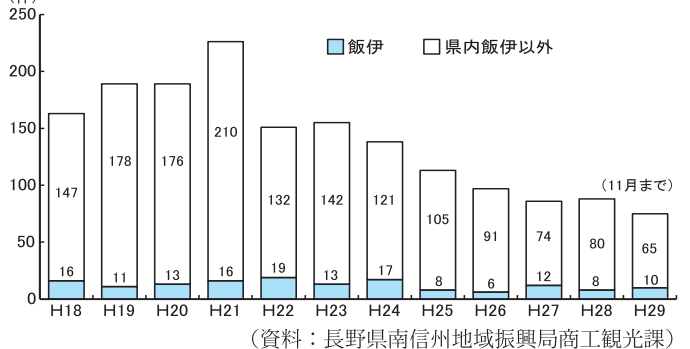
自動車新規登録台数（松本自動車検査登録事務所管内）



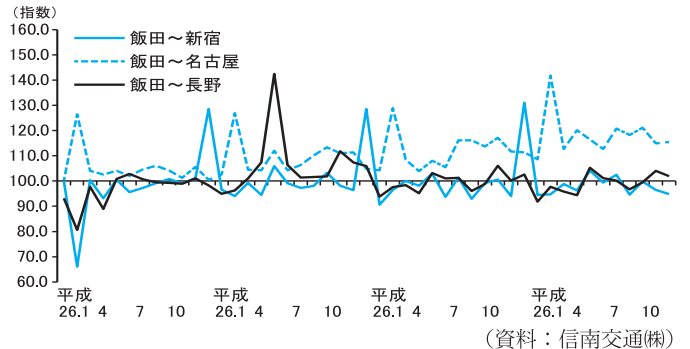
軽自動車新規登録台数（長野県合計）



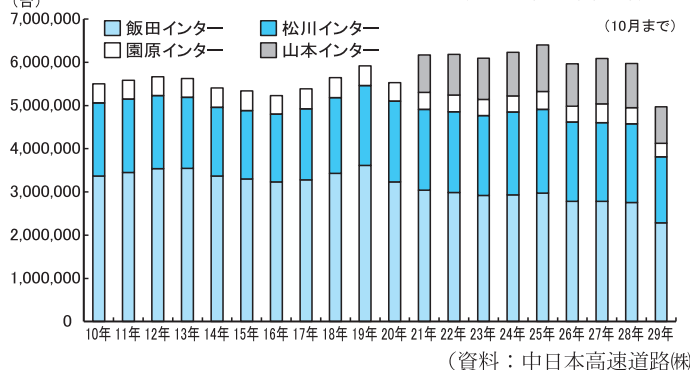
倒産件数（負債総額1千万円以上）各年の推移



高速バス乗車人数の推移（H24各月＝100とした指数）



4インターチェンジ利用台数の推移（出入計・年合計）



新幹線で移住・定住を実現！

～北陸新幹線沿線自治体の取り組み～

新幹線の通勤・通学利用が移住・定住の切り札となることが認識され、新幹線駅を有する各自治体では新幹線利用にさまざまな手立てが打たれている。今回は北陸新幹線（法律上は東京～大阪間）の各駅自治体が平成29年12月現在公表している取り組みを次頁にまとめた。

首都圏自治体でも取り組み例が

北陸新幹線は大宮駅（さいたま市）から順次見ていくと、現状でも相当の新幹線通勤利用がある熊谷駅の埼玉県熊谷市で新幹線通勤補助制度を目にした。補助の対象は通勤定期券代から勤務先の通勤手当を控除した額の2分の1相当額という一般的なもの。熊谷市の上限は2万円となっている。他方で、隣の本庄早稲田駅を抱える本庄市は、新幹線通勤補助について「都市基盤整備が整い、まちづくりが進展していくなかで、駅利用者も増加していくものと考えております。現状では、補助金等の新たな制度の導入につきましては考えておりません」（本庄市秘書広報課広報公聴係回答 平成23年11月24日）としている。

「移住サポート」に施策を統合している佐久市

当金庫「リニア中央新幹線開通に係る調査」（平成28年3月）で取り上げた佐久市であるが、現在も調査時と同様の制度が続いている。佐久市の特徴は「移住サポートプラン」の名の下、住宅物件取得、物件改修、新幹線通勤への補助をセットで示していること。表にはないが、これに扶養する中学生以下の子一人につき10万円の補助金がプラスされる。該当する方にとっては判り易くお得感が感じられるのではなかろうか。他自治体では「空家対策」を別途進めるところを、当市は諸施策を統合的なメニューとして提示しており、移住推進に対する市の姿勢が窺われる。

同じ県内の飯山市では、新規学卒者を市内に留めるための通勤補助に絞り込んでいるのが特徴である。

奨学金としての助成制度 上越市

新潟県内では上越市が通学定期代の貸付という形態をとっており、制度名に「奨学金」のワードが入る。卒業後市内に居住して就業する場合、返還額の3分の2の免除があり、一般的な奨学金への「上乘せ」（「横出し」？）という性格を有している。学卒者が市内に定着・定住することを意図している。

通勤・通学、注力点が異なる富山県内の各市

富山県内ではいちばんの乗降客数の富山駅・富山市でも補助制度を採用していた。富山市の制度は通学補助で、富山市から県外通学する者への補助を行っている。

これに対し高岡市は、通勤者支援をとっている。対象は定期券代から通勤手当控除後の額で1か月あたり上限1万円である。高岡市は速達型の「かがやき」の高岡駅停車を至上命題としており、そのための乗降客数増加策との位置づけである。

黒部宇奈月温泉駅を抱える黒部市は通勤、通学両方に目配りしたものとなっている。



敦賀に向け延伸工事が進む北陸新幹線（小松市付近 29年11月）
飯伊地域でもやがてこのような光景が…（リニア対策課撮影）

北陸新幹線関係 移住定住・新幹線利用を進めるための施策・制度一覧表

県	埼玉県	長野県	新潟県	富山県	高岡市
自治体	熊谷市	佐久市	飯山市	黒部市	富山市
制度の名称	新幹線定期券購入補助金	移住サポートプラン(移住促進住宅取得費等補助金)	飯山市新卒者JR通勤補助金	通勤定期補助金 通学定期補助金	富山市新幹線で通学推進事業
主な内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 通勤定期券補助 (1か月の新幹線定期の額-新幹線にかかる通勤手当)×1/2 (上限2万円) 定期券初日から2年間 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新築物件取得補助 最高40万円 ● 中古住宅取得補助 <ul style="list-style-type: none"> ・最高20万円 ・空家バンク登録物件を取得の場合の加算 一律20万円 ・物件改修費 最高10万円 ● 新幹線通勤 一人あたり最高年30万円×最長3年新幹線定期券を佐久平駅で購入した者で購入額から通勤手当額を控除した額の2分の1の額 	<ul style="list-style-type: none"> ● 定期券補助金 ひと月5千円×2年間を限度 <ul style="list-style-type: none"> ・北陸新幹線またはJR飯山線を利用して通勤する者 	<ul style="list-style-type: none"> ● 通勤定期補助 定期券代から勤務先からの通勤手当を減じた額の2分の1相当額 (上限1万5千円) ● 通学定期補助 2万円×定期券期間 	<ul style="list-style-type: none"> ● 通学定期券補助 月額2万円
主な要件	<ul style="list-style-type: none"> ①熊谷市内に平成28年4月1日から31年3月31日の間に転入すること(1年以内の再転入を除く) ②熊谷市内に住宅を取得すること ③5年以上居住する意思があること ④転入日に40歳未満であること ⑤熊谷駅を新幹線通勤の起点とすること ⑥市税等を完納していること 	<ul style="list-style-type: none"> ①市内に居住する30歳未満の人 ②市外の大学等に在学する人 ③公共交通機関を利用して通学する人 	<ul style="list-style-type: none"> ①富山市内に住所を有すること ②富山駅からの新幹線学割通学定期券で県外の学校へ通学していること(小中高校を除く) 	<ul style="list-style-type: none"> ①通勤定期補助 黒部市民で黒部宇奈月温泉駅から県外の職場へ通勤する者 ● 通学定期補助 黒部市在住の大学の学生で新幹線通学定期券により黒部宇奈月温泉駅から県外の大学等に通学する者 	<ul style="list-style-type: none"> ①高岡市に住所がある者。もしくは高岡市に所在する企業等に勤務する者 ②新幹線通勤定期券を利用し新高岡駅を発着して通勤する者 ③新幹線定期券購入額から勤務先から支給された通勤手当額を差し引いた額が補助金額を超える者

健康経営のすすめ！

飯田信用金庫 地域サポート部 企業経営サポート課
 中小企業支援アドバイザー 佐々木信高

将来的な労働人口の減少を見据え人的生産性の向上が企業の重要な課題になっていることから、企業の従業員への健康配慮が高まっています。

「健康経営」とは、企業が従業員の健康に配慮することが、企業の生産性向上に繋がり、将来的に収益性等を高める投資であるとの考え方をもって戦略的に実践する事を目的としています。

なぜ、健康経営が必要か？

- ① 生産年齢人口の減少に伴う労働力不足
- ② 従業員の高齢化
- ③ 残業時間が多い
- ④ 離職率が高い
- ⑤ 医療費の適正化
- ⑥ メンタルヘルス不調者の増加

といった理由があげられます。

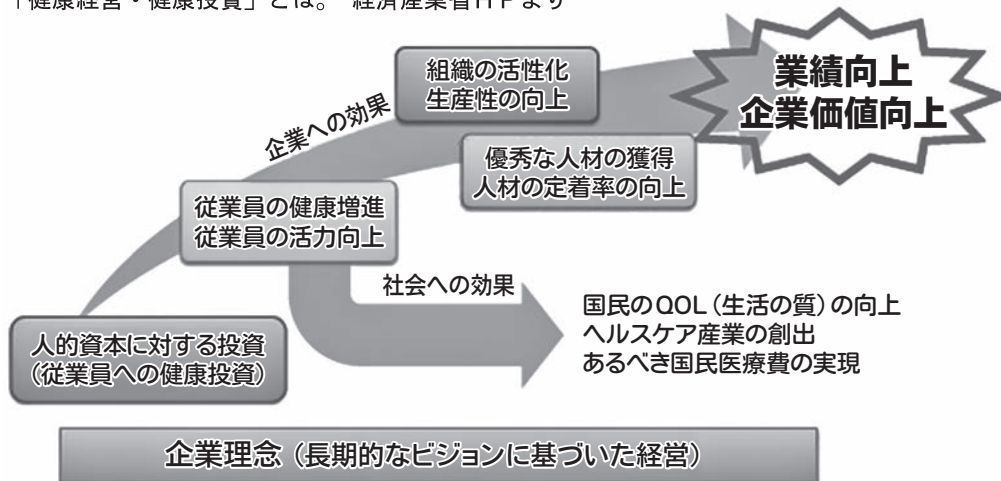
特に中小企業では少人数で運営するため、大企業以上に従業員の健康保持増進に気を配ることが重要です。

近年、企業の人的コスト削減により「ブラック企業」、「長時間残業」という言葉が表わすように、従業員の労働環境悪化に伴う自殺や労働災害裁判などのリスクが企業側、従業員側双方において顕在化しています。このことが、健康経営の必要性が高まった背景になっていることも事実です。また、健康保険組合の赤字補填のための企業負担も多くなってきており、従業員の健康増進により短期的、長期的観点から医療費の削減をすることも目的の一つとなっています。従業員の健康管理者は経営者であり、その指導の下、健康管理を組織戦略に沿って展開することが企業経営にますます重要になっていくものと考えます。

また、昔と違い、求職者が、賃金や知名度より労働時間や職場環境を重視して職を求める方向にあることも一因にあります。

経済産業省では、2016年度から健康経営に係る各種顕彰制度を推進しています。この目的は、優良な健康経営に取り組む法人を「見える化」し、従業員や求職者、関係企業や金融機関などから「従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいる企業として社会的に評価を受ける事ができる環境を整備する。」とあります。

「健康経営・健康投資」とは。 経済産業省HPより



経済産業省の健康経営に係る顕彰制度（対象法人一覧）

	健康経営銘柄	健康優良法人 [大規模法人部門]	健康経営優良法人 [中小規模法人部門]
卸売業	東京証券取引所 上場会社	101人以上	1人以上100人以下
小売業		51人以上	1人以上 50人以下
医療法人・サービス業		101人以上	1人以上100人以下
製造業・その他		301人以上	1人以上300人以下

この顕彰制度のメリットは、企業自ら健康企業宣言を行うことにより、従業員の健康管理に対する意識が変わり、従業員が健康になれば生産性の向上に繋がります。また、「認定証」の社内掲示や、対外的な広報等により、企業イメージの向上を図ることができます。

さらに、東京証券取引所と共同で「健康経営銘柄」24社を選定して今年の3月公表しました。「健康経営銘柄」は、長期的な視点からの企業価値の向上を重視する投資家にとって魅力ある企業を紹介するものであり、今後、多くの企業が「健康経営」の取り組みを促進するインセンティブとなることを目指します。また、東京都では、保険者、東京商工会議所、東京都社労士会等の関係団体によって、2016年6月に「健康優良企業認定制度」をスタートさせました。この事は、国の「働き方改革」と両輪となり健康経営の普及推進に追い風になっています。

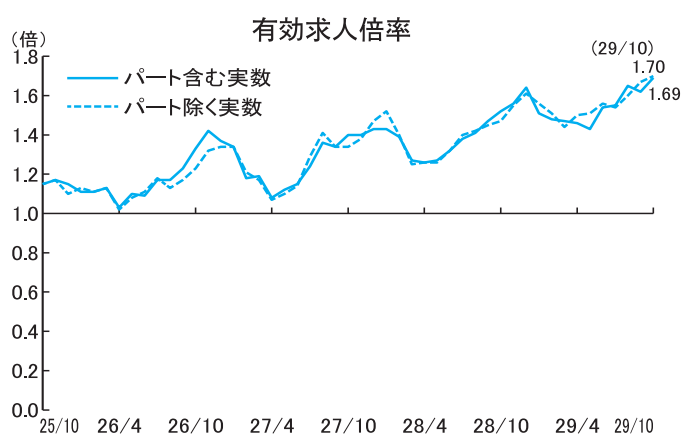
「人材不足＝人が採れない」「平均年齢が高い」という悩みを抱える中小企業は多いと思いますが「健康な従業員こそが収益性の高い会社をつくる」というヘルシーカンパニーの考え方を学ぶ必要があると思います。

飯田信用金庫では、2名の専門アドバイザーによる継続的な事業支援を行っています。

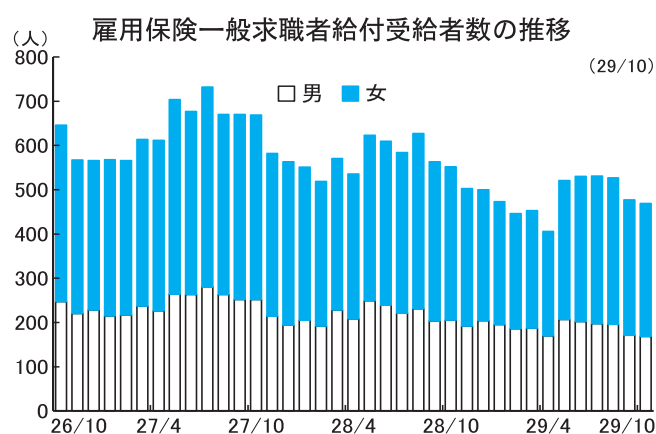
今回執筆を担当した当金庫専門アドバイザー 佐々木信高 は、商工会、商工会議所で地元中小企業の支援業務に長く携わった経験を基に、皆様の課題の解決に向けた取組のお手伝いをさせていただきます。

ご用命は、飯田信用金庫 地域サポート部 企業経営サポート課（飯田市本町1-2 飯田信用金庫4階 TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132）まで お気軽にお申し付けください。

雇用の状況



10月の月間有効求人倍率は、パートを含む実数で1.69倍と、前月から0.07ポイント上昇。パートを除く実数も1.70倍で、前月から0.03ポイント上昇している。



10月の雇用保険一般求職者給付の受給者数は前月に比べ、男性は3人減少、女性も5人減少しており、全体では469人と前月から8人減少している。

(資料：ハローワーク飯田)